

# 北九州 市議会だより



NO.199

平成24年11月1日号  
(年4回発行)

編集・発行  
北九州市議会事務局総務課  
TEL582-2622 FAX582-2685



◇市議会のホームページで「市議会だより」や本会議の「会議録」「インターネット中継」などがご覧いただけます。  
アドレスは<http://www.city.kitakyushu.lg.jp/sigikai/>です。



▲若戸大橋

## 平成23年度 各会計決算を 認定!!

平成24年9月定例会が9月5日から10月4日までの30日間の会期で開かれました。

市長から提出された議案は49件で、うち48件を原案のとおり決定し、市民から直接請求のあった「北九州市議会議員定数及び各選挙区選出議員数に関する条例の一部改正」議案は否決しました。

議員から提出された議案は14件で、うち9件を可決しました。また、保健病院委員会から提出された議案1件を可決しました。

### 本会議での質疑・質問と答弁

本会議での質疑・質問と答弁は、要約したものを掲載しています。詳細は、11月下旬以降、市立文書館および各市立図書館において会議録でご覧いただけます。また、市議会のホームページの会議録検索システムでも12月中旬頃からご覧いただけます。

主な内容	1～3面	本会議での質疑・質問と答弁 可決した意見書・決議 請願・陳情の審議結果	4面	決算特別委員会 市長質疑での質疑と答弁 常任委員会の主な活動状況 議会報告会開催のお知らせ など
------	------	---	----	--

### 平成23年度決算の特色と市長の見解について

**議員** 平成23年度は、地域経済の厳しい状況であったが、北橋市政二期目の新たなスタートを切った平成23年度決算の特色や市長の思いについて尋ねる。

**市長** 「元気発進！北九州」プランを着実に推進するため、重点課題を掲げて公約の履行に取り組んだ。まず、緑の成長戦略として「北九州スマートコミュニティ創造事業」や、アジア低炭素化センターにおける環境ビジネスのアジア展開などの充実強化に取り組んだ。国から「環境未来都市」、「国際戦略総合特区」にダブルで選定されたことは大きな成果だと考えている。

子どもを生み、しっかりと育てるといふ分野、健康づくりの分野、にぎわいづくりと安全・安心の分野でも、それぞれ着実な一歩が踏み出せたと考えている。

また、39億円の経営改善を達成し、単年度収支のバランスがとれた財政運営を22年度に引き続いて実現できたことも大きな成果だと考えている。

### 小倉地区と黒崎地区の活性化について

**議員** 小倉地区と黒崎地区の中心市街地活性化基本計画は、

本会議では、各会派から次の22人の議員が質疑・質問を行いました。(発言順。掲載記事の順番とは関係ありません。)

- 山本 眞智子 (公明党)
- 三宅 まゆみ (ハートフル北九州)
- 藤沢 加代 (日本共産党)
- 村上 幸一 (自由民主党)
- 荒川 徹 (日本共産党)
- 田中 常郎 (自由民主党)
- 吉河 節郎 (公明党)
- 浜口 恒博 (ハートフル北九州)
- 柳井 誠 (日本共産党)
- 本田 忠弘 (公明党)
- 山本 眞理 (ふくおかネットワーク)
- 井上 眞吾 (日本共産党)
- 中村 義雄 (議員定数削減北九州)
- 井上 秀作 (自由民主党)
- 大久保 無我 (ハートフル北九州)
- 宮崎 吉輝 (自由民主党)
- 八野 敏彦 (ハートフル北九州)
- 渡辺 博春 (日本共産党)
- 戸部 武弘 (自由民主党)
- 新井 健一 (自由民主党)

平成25年3月末が計画期限とされている。本市は、計画期間の1年延長に向けて国と調整しているようだが、その理由を尋ねる。また、同基本計画が終了した後は、どのように両地区の活性化を図っていくのか、見解を尋ねる。

**市長** 小倉地区と黒崎地区では、中心市街地活性化基本計画に基づいて、ハード・ソフトの整備を進めてきたが、駅前ペDESTリアンデッキや河川の整備など、両地区とも計画期限までに完了しない事業がある。また、漫画ミュージアムや黒崎びびんホールなどの開業効果を計画期間内に適切に把握することができない状況にある。そのため、平成25年度も国の支援を受けるとともに、目標に対する事業効果を適切に反映することができるよう、計画期間の延長に向けて調整を始めたものである。

### いじめ対策について

**議員** いじめの原因とする自殺事件が問題となっている。本市も9月に全小・中学校等でアンケート調査を実施することだが、いじめ対策の取り組みとアンケート調査結果の活用方法について見解を尋ねる。

**教育長** 本市では未然防止、迅速・正確な実態把握、適切な対応による早期解決を目指し、指導主事の日常的な学校訪問による指導、ひばり・中傷など不適切なネット上の書き込みの実態把握、いじめ・不登校等に

対応する市費講師の配置などを行っている。学校では、アンケート調査等による状況把握、スクールカウンセラーを活用した相談体制の充実、いじめチェックリストの活用等に取り組み、いじめを認知した場合、職員との連携、関係児童生徒への指導やカウンセリングの実施等を行い、早期解決に努めている。

今回のアンケート調査後は、教員による面談を行い、これまで同様早期解決に努める。またこれらの結果は管理職研修会やいじめ問題指導書の改訂等に活用していく。

### 若者の就業支援の成果について

**議員** 平成23年度に実施した若者への就業支援対策の成果について尋ねる。

**市長** 平成23年度は新卒者に対して合計4回の「合同会社説明会」を開催し、企業192社、学生2292名が参加した。「新卒等採用拡大ローラー作戦」では420社を訪問、64名の求人開拓と27名の内定を得た。若者全般の就業支援では「新卒等未就職者支援事業」において91名の就職が決定し、「若者ワークプラザ」の運営による就業支援では、1049名の就職が決定するなど、一定の成果が得られたと認識している。

一方、本市も非正規雇用の割合が増加しているため、24年度は新たに、国との連携による「北九州若者ジョブステーション事業」、社会人基礎研修や就労体験などを行う「正規雇用就職支援事業」を実施している。今後も、前途有望な若者が安定した職に就き、力を存分に発揮できるように地元企業や関係機関の協力を得ながら、取り組みを強めていきたい。